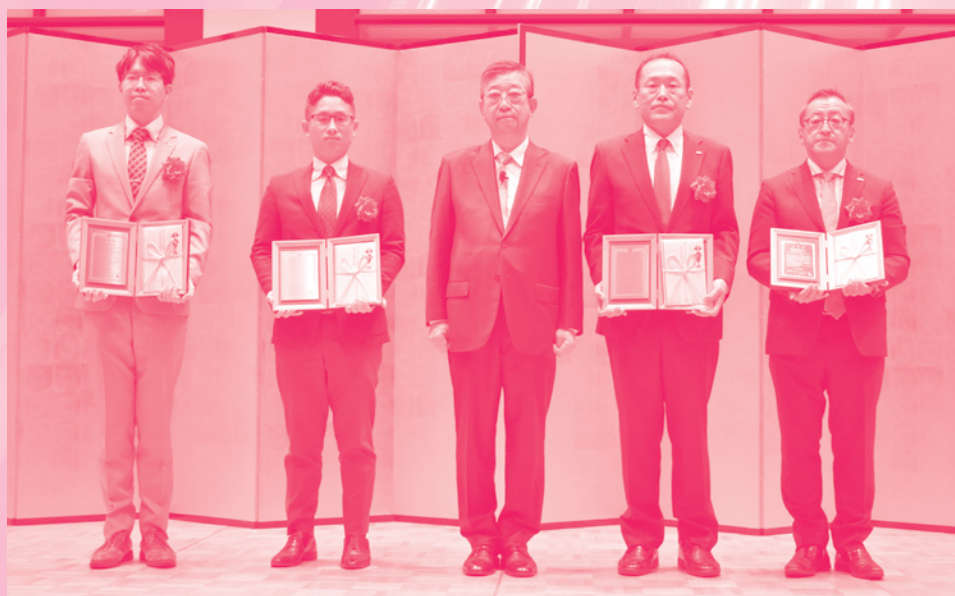




～ロジスティクス高度化へのチャレンジ～

2025年度
ロジスティクス大賞
応募のご案内

応募受付締切日/
2025年4月4日(金)



ロジスティクス大賞の概要



ロジスティクス大賞とは

ロジスティクス大賞は、ロジスティクスの推進に向けて、顕著な努力をし優れた実績をあげたと認められる企業、機関、団体を表彰する制度です。優れた実績や成果を顕彰することで、ロジスティクスの社会的浸透と、ロジスティクス部門および関係者の意識高揚を図ることを目的としております。

応募のおすすめ

社会環境が目まぐるしく変遷する昨今において、持続可能な社会を実現するべく、各企業においては様々な対応が求められております。このような状況下において、ロジスティクスの高度化の優れた実績・取組を広く社会に公表することは、新たな挑戦目標を生み出す刺激となり、当該企業のみならず、広く産業界の関係者にとって極めて有意義なことであります。

本年度で第42回を迎える「ロジスティクス大賞」へのご応募をお待ちしております。

[参考]ロジスティクス大賞の応募対象範囲

【領域の区分】

ロジスティクス	
対象範囲	企画・開発、生産、物流、営業、販売を統合した範囲が対象
対象業務	企画・開発、調達・購買、生産、物流、営業・販売
関係部門	部門横断的（協力会社連携）
役割	サービスレベル、拠点計画、収益管理、供給計画、在庫計画 など

応募要領

募集対象

日本国内に事業所を有する企業・機関・団体。
※個人の応募はできません。

スケジュール

～4/4	～4/25	5月下旬	6月下旬	7月下旬	10月
①応募 お申込み 申込書をお送りいただけます。	②論文の提出 論文執筆要領に従い、論文のご執筆・ご提出をいただきます。	③ノミネート委員会の開催 必要に応じ、ヒアリングや質疑応答を実施いたします。	④選考委員会の開催 ロジスティクス大賞および特別賞が決定されます。	⑤受賞企業の発表 審査結果は7月下旬までに応募企業へ通知いたします。	⑥表彰式の実施、ロジスティクス全国大会2025にて受賞記念講演 受賞企業にはロジスティクス全国大会にてご講演をお願いいたします。

①応募 お申込み 締切日:4月4日(金)

- ・自薦、他薦は問いません。また、1社単独もしくは複数社共同、いずれでの応募も可能です。
 - ・自社製品・サービス・ソリューションの紹介のみでの応募はご遠慮ください。
 - ・別紙申込書にご記入のうえ、4月4日(金)までに事務局宛にお送りください。折り返し、「論文作成要領」をお送りいたします。論文作成要領はホームページからもダウンロードできます。
 - ・他薦の場合は、当協会ホームページより推薦書をダウンロードしてください。
(<https://www1.logistics.or.jp/propulsion/prize.html>)
- ※応募資料は返却いたしません。また、外部には一切公開いたしません。

当協会では、個人情報の保護に努めております。

詳細は、当協会のプライバシーポリシー (<https://www1.logistics.or.jp/privacy.html>) をご覧ください。

②論文の提出 締切日:4月25日(金)

下記の要領にて、4月25日(金)までにアブストラクトと論文を事務局宛にご郵送ください。

1. アブストラクト

以下の項目につき、A4サイズ1枚程度に簡潔に記載してください。

- 取り組みを行うに至った背景と目的
- 取り組みの概要
- 取り組みによる定量的成果 等

2. 論文

論文構成として、以下の内容を記載してください。

(1)目標設定と条件

取り組む前提状況(着眼点)および総合目標の設定。

(2)活動の展開・対策および組織体制

対策内容とそれに伴う活動及び組織体制の整備、革新的技術の応用度。

(3)実績(成果)と経営革新度

実績(経営指標としての定量的な成果)と経営革新への貢献度。

(4)社会的影響と貢献

他企業・事業所などへの応用、社会システムとしての汎用性。

※詳細は事務局よりお送りする「論文作成要領」をご確認ください。

※アブストラクトと論文のテーマは、同一にてご記載ください。

③ノミネート委員会の開催

④選考委員会の開催

審査の方法

以下の評価基準に従って、ロジスティクス大賞ノミネート委員会ならびにロジスティクス大賞選考委員会にて論文審査が行われます。

※ノミネート委員会では、必要に応じ、ヒアリング・質疑応答等を実施いたします。

【創造性】 新しい着眼点をもとに、革新性の高い目標やKPIの設定をされているか、またこれまでになかったオリジナリティのある事例かどうかを評価します。

【成果度】 経営レベルの定量的な指標として、生産性の向上や、投資の費用対効果等をどれほど達成したかを評価します。

【経営革新度】 経営革新への貢献度を評価します。

【技術革新度】 マテハン、ロボティクス、システム等の革新的技術をどれだけ応用されたかを評価します。

【社会性】 当該事例が、他企業や事業所などへ適用・応用が可能かどうかを評価します。また、社会実装可能な仕組みかどうかの汎用性も評価します。

【努力度】 応募に際し、どのような努力・注力をされたか、また内外の関係組織との間の調整をどのようにされたかといった点を評価します。合わせて、当該事例を通して関係人材の能力がどれほど向上したかを評価します。

⑤受賞企業の発表

審査結果は7月下旬までに応募企業へ通知いたします。

※受賞されなかった企業につきましては、選考委員からのコメントが送付されます。

⑥表彰式の実施、 ロジスティクス全国大会2025にて受賞記念講演

表彰式

ロジスティクス大賞受賞企業へ、賞楯と副賞として賞金を授与いたします。

※受賞企業ならびに表彰式の模様は、当協会機関誌「ロジスティクスシステム」やホームページの他、専門雑誌および業界紙等で発表いたします。

受賞記念講演

受賞企業には、「ロジスティクス全国大会2025」にて実施される「受賞記念講演」ほか、各ご講演にて、取組みをご発表いただきます。

※受賞企業には、当協会機関誌への記事のご寄稿、また見学の受入れをお願いいたします。

これまでの受賞実績(過去3年度分)

2024年度(第41回)

【ロジスティクス大賞 技術革新特別賞】花王株式会社

画像情報を活用した化粧品新製品予測モデルの構築による廃棄ロス削減

【ロジスティクス大賞 業界革新特別賞】鹿島建設株式会社

鹿島建設による物流効率化の取り組み～運送マッチングと物流センター中継システムの構築～

【ロジスティクス大賞 人材育成奨励賞】有限会社網干自動車教習所

物流事業に対する、多能工物流人材育成における自動車学校の果たせる社会的機能

【ロジスティクス大賞 グリーン物流奨励賞】

ネスレ日本株式会社／日本貨物鉄道株式会社／全国通運株式会社／日本運輸倉庫株式会社

食品物流の未来を担う中距離帯鉄道輸送の可能性

2023年度(第40回)

【ロジスティクス大賞 社会性特別賞】加藤産業株式会社

検品レス+伝票レスの同時実現による製配双方の物流業務効率化取組み～加藤産業・ヤマサ醤油・日本パレットレンタル3社の取組み～

【ロジスティクス大賞 技術革新特別賞】株式会社Mujin

知能ロボットとAGV連携による多品種ケースハンドリングシステム

【ロジスティクス大賞 技術革新奨励賞】

DENBA DISS株式会社／南日本運輸倉庫株式会社／DENBA JAPAN株式会社

『温度管理から“鮮度管理”へ』鮮度保持テクノロジーがもたらす『次世代コールドチェーン』構築へ向けて

【ロジスティクス大賞 業務改革奨励賞】エレコム株式会社

荷主とエンジニアリング会社の協業で実現した「歩かない」物流センターの構築～60%の省人化を実現したエレコム兵庫物流センター～

2022年度(第39回)

【ロジスティクス大賞】北海道ロジサービス株式会社／株式会社TSUNAGUTE

製・配・販・輸送をコネクティッド、日本初の滑らかな物流DXを実現～コープさっぽろ納品関係者全ての連携～

【ロジスティクス準大賞】株式会社日立物流

メディカル物流におけるオートメーションの新たな形～7社協創で挑んだ、日本初完全無人ケース仕分けシステムの開発～

【ロジスティクス大賞 特別賞】

株式会社エーディエフ／株式会社合通ロジ

組み立てが簡単な物流ボックスで積載率向上～荷役作業とCO₂削減で人にも環境にも優しい物流を実現～

ハコベル株式会社／株式会社TBM

CO₂の間接排出量(Scope3)のリアルタイム可視化システムの実現～業務負荷をかけずにCO₂排出量を可視化するための取り組み～

ロジスティクス大賞 選考委員会 委員一覧 (※2024年度選考時)

(順不同・敬称略、所属・役職は2024年8月時点の表記)

委員長	黒川 久幸	東京海洋大学 学術研究院 流通情報工学部門 教授
委員	平林 孝之	経済産業省 商務・サービスグループ 物流企画室 室長
委員	宮崎喜久代	公益社団法人経済同友会 執行役
委員	紺野 博行	国土交通省 物流・自動車局 物流政策課長
委員	石橋 弘彰	株式会社日刊工業新聞社 編集局 第二産業部 部長
委員	村上 富美	株式会社日経BP 日経ビジネス編集部 シニアエディター
委員	廣島 秀敏	NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社 ロジスティクス・ソリューション部 部長
委員	脇坂 大介	一般社団法人日本経済団体連合会 産業政策本部 上席主幹
委員	青山 直樹	日本商工会議所 地域振興部 担当部長
委員	角田 信之	公益財団法人日本生産性本部 参与
委員	鈴木 定省	横浜国立大学 大学院 国際社会科学研究院 教授